



身近な昆虫たち



～いろんな昆虫のいる生活～

森や草原、水辺…いろんな環境にさまざまな昆虫が暮らししている。それぞれの昆虫が住みやすい場所、食事をする場所が決まっている。1つの木でも根本からつべんまでいるいるな昆虫がいる。昆虫の多い場所、少ない場所と昼間、夜でも見られる昆虫はちがってくる。1本の木に何種類いるか、観察してみると楽しいよ。



オキナクヒラタケガタ

夜灯りととんでくることがある。普通に見られるクワガタ。ミカソの仲間。アカメカシロ、ミヨウロククサギの木に集まる。幼虫は朽木の中で育つ。体長28～72mm。5～12月。



オキナクノコケリクワガタ

赤みがかった茶色～黒色など、個体によって色がちがうことがある。夜の灯りに集まり、チツキツの樹液に集まる。大あごはオス同士が戦う大切な武器。体長20～25mm。6～9月。



オオシロコアラカミキリ

ミカソの木などで見つかる大形のカミキリムシで、黒地に白の小さな水玉模様かきれいでとても人気がある。幼虫はミカソの木に穴をあけ枯らしてしまふことがあるので、農家にさわられる。体長28～38mm。5～7月。



オキナククワガタ

シマクワでよく観察される。近づいて木の枝に触れたりすると、ホトリと落ち、死んだふりをする。手に取ると硬い体をしている。顔も、歩く姿もソウみたいに見える。体長13～15mm。一年中。



ヨツモンカメノコハムシ

ノアサガオの葉やサツマイモの葉に穴があいていたら、葉の上じびたりと伏せているこのヨツモンカメノコハムシが犯人。亀のこうらに似ていることからこの名がついた。体長7.5～9mm。6～11月。



オサヨコバイ

林内のオサヒロコバの木の葉でよく見られる。近づくと横に歩いて葉や茎の裏側にかくれることから「ヨコバイ」の名前がつけられた。セミを小さくしたような姿をしている。体長11mm。4～11月。



ナナホシキンカメムシ

成虫は1年中見られ、葉の裏や幹に数十匹の集団で見られることも多い。金緑色の美しいカメムシ。体長16～20mm。一年中。



アカギカメムシ

背中のもようが人の顔みたいに見える「人面虫」、アカメカシロに産卵し、幼虫はその実の汁を吸って大きくなる。大きな集団をつくる。一年中。体長26mm。



アオハハコロモ

青緑色の衣にピンクのふちを持つたかわいい虫。セミに近い仲間、ミカソ科、クスノキ科、クワ科などの植物にとまって汁を吸う。体長9～11mm。5～11月。



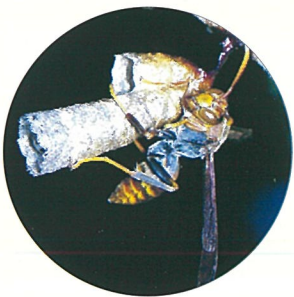
セイヨウミツバチ

道ばた、空地のシロノセンダンクサで蜜や花粉を集めるのをよく見かける。後ろ足をよく見てみると回子のように丸い黄色いものがついている。これは花粉バスケットと呼ばれる部分にためた花粉なんだ。体長12～13mm。一年中



コガタスズメバチ

地面近くの木の枝やシダなどで巣をつくる。巣は女王が1匹で春から作り始め、夏には大きなボール状になる。秋に新女王が誕生したら翌年2月頃には放棄される。体長22～27mm。4～2月。



セロクアシナガバチ

コガタスズメバチより一回り小型で足が長く、全体的に黄色味が強い。明るい林や集落周辺の木の枝に笠状の巣を作る。体長20～26mm。4～12月。

注意

スズメバチやアシナガバチは、巣に近づきすぎると防衛のため攻撃してくるので、あまり近づかないようにしましょう。

Vol.7 ローヤルゼリー（王乳）の不思議

ミツバチは一匹の女王バチを中心に、何万匹もの集団で社会を形成し、日に2000個、年に数十万個もの卵を産み続ける女王バチと、女王や幼虫の世話から密集、巣の防衛まで仕事を行う働きバチに分かれています。女王バチが歳をとると卵を産めなくなり、働きバチが次の女王バチの為に特別室（王台）を2～3個作り、そこに1個ずつ卵を産み、卵からかえった幼虫は生まれて間もない働きバチが出すローヤルゼリーと食べられる特別な餌で育ち女王バチになる。一匹しか女王バチになれないので先に女王バチになったものか他の王室にいる幼虫を刺し殺してしまふ。働きバチが数ヶ月しか生きられないのに、ローヤルゼリーで育つ女王バチは数年生きるんだ。ローヤルゼリーにはたんぱく質、必須アミノ酸、ビタミン、ミネラルが豊富に含まれている。

なほエゴ博士のなるほど講座



テントウムシのおはなし

テントウムシは「天道虫」とも書き、太陽に向かって飛び習性のあることからその名がついた。小型の甲虫の仲間で、沖縄でふつう見られるのは10種類くらい。小さい子供達の遊び相手でも、身近にたくさんいる。でもテントウムシって、意外なお仕事をしているんだ。

【赤と黒なんて、ちょっと目立ちすぎ？】

なぜ目立つ色なの？それは目立ってもだいじょうぶ、ということ。テントウムシを指でつついてみると、コロコロと転がって死んだふりをして足の付け根からにがい汁を出す。派手な体色は「俺は食べてもまずいよ」と知らせるための色で「警戒色」といい、これも身を守る方法なんだ。ハチなんかの黄色と黒も同じだね。

えさマナー

葉

虫

：アブラムシを食べる ； 葉っぱを食べる



虫

▲ ナナホシテントウムシ



虫

▲ キイロテントウムシ



葉

▲ ショウニンアラテントウムシ

テントウムシで遊ぼう！

【テントウムシ星取りレース】

テントウムシの背中の星の数はいくつあるのかな？よく観察してみると色々な数があるよ。発見したテントウムシの背中の星の数を足して競争してみよう。ニジウチヤホシテントウムシは一匹を見つけただけで、ナナホシテントウムシ4匹を探した子と同等になれるよ!!



+ = 11点

ナナホシテントウムシ

ニジウチヤホシテントウムシ

キイロテントウムシ

ショウニンアラテントウムシ

知らんぷりしよう

【テントウムシシューシューゲーム】

ストローのちようど真ん中につまようじをさしてシューシューを作る。それにテントウムシをのせる。そうすると、テントウムシは自分の重さでシューシューが下がると高いところへ行き、それも重さで下がると、また高いところへ行く、というのを何回もやる。ただし、テントウムシがストローに乗って行って気づいたら、そこでアプレンとお天道様に向かって飛んでいってしまう。



▲ ナナキ



虫

▲ タンタラテントウムシ



虫

▲ ヒメカメノコテントウムシ

【共生と天敵】

テントウムシの食べ物は、種類によって小さな昆虫を食べる肉食と、作物の葉などを食べる植物食に分かれている。作物の害虫のアブラムシなどを食べるナナホシテントウムシやタンタラテントウムシは人間の役に立つので益虫、逆に作物の葉を食べるニジウチヤホシテントウムシは農作物を荒らすため害虫と言われているけど、これは人間の都合で呼んでいるだけ。テントウムシはたまたま一生懸命生きているんだ。テントウムシはみんなのお庭で小さいけどとても役に立っている。それは、植物についているアブラムシを食べるから！アブラムシをテントウムシが食べに来るとアブリがテントウムシの足に噛み付いたり、背中によじ登ったり、邪魔をする。アブラムシはアブリの好味の甘い汁を出すので、アブリはそれをもたらすために助けるんだ。アブリとアブラムシのように助け合う関係を「共生」といい、アブラムシにとってテントウムシは「天敵」という。



虫

▲ ベタリアテントウムシ



葉

▲ ニジウチヤホシテントウムシ



虫

▲ テントウムシの一種



虫

▲ ハイイロテントウムシ



▲ 幼虫



これがテントウムシの偉事だ！肉食のテントウムシは、幼虫でも成虫でもアブラムシなどを食べる。ほかに葉っぱを食べるテントウムシもいる。

▲ アブラムシを食べるタンタラテントウムシの幼虫

vol. 8 神様の虫

テントウムシは漢字で「天道虫」と書く。イギリズでは「聖女の虫」、フランスでは「神様の虫」とも呼ばれ、この虫に頼むと天国に席を予約してくれるという言い伝えがある。

vol. 9 天然の農薬

欧米では古くからホップ、柑橘類の害虫駆除にナナホシテントウムシなどを利用し、外国では害虫駆除のためテントウムシを売る通信販売業者までいるそう。日本でもイチゴのハウス栽培で天然農薬として利用している農家もある。テントウムシのイサはアブラムシやカイガラムシ。これらの害虫を好んで食べるテントウムシは生きた農薬として頼りになる。

なはエゴ博士のなるほど講座



チョウが舞う森

チョウの暮らしは、成虫の時と幼虫の時ではけっこう違う。成虫はいろいろな花の蜜を吸うけれど、幼虫はそれぞれの種類で食草（餌となる草花や木の葉っぱ）が決まっている。

ここに来るチョウの幼虫の食ハ物を見てみると、いろんなことがわかってくる。たとえばチョウがいるところは、幼虫の食草が種類も数もいっぱいある、ってこと。それだけちゃんとした自然がある、ってことをチョウが私たちに教えてくれる。



オオコノカタ

日本で一番大きいチョウで、とても人気がある。食草はホウライイカガミ。



リウキョクオオササギ

アサギタタラに似ているけど、こちらは一年中沖縄で暮らすチョウ。食草はツルモウリソウカ。



アサギタタラ

渡るチョウで有名。10月から5月ぐらいの間に見られる。食草はサクラランなど。



イシガキチョウ

3月～12月くらいによく見られるチョウで、温った河原などで吸水するのが見られる。食草はイヌビロコ、ガジュマルなど。



シヤクオアゲハ

黒に赤のポイントがきれいなアゲハチョウ。食草はリュウキユウラクノスズクサなど。



アオスジアゲハ

3月～12月の間に見られる青いラインがかっこいいチョウ。食草はクスノキ、タブノキ、ヤブニツケイなど。



ウスヒロコノアサギ

枯葉のように目立たないチョウ。チガヤやアスキなどが食草で、成虫は樹液や腐った果実を好む。



なはエコ博士のなるほど講座

Vol. 10

「渡り」をするチョウ

「てふてふかー」匹縫細虫鳴を渡って行ったという安西冬樹の有名な詩がある。アサギタタラは春に北上、夏に南下をくり返す渡り鳥みたいなチョウで、海を渡って1000km以上、50日も移動することが知られている。小さい体ですこい旅をするんだ。

Vol. 11

黄金色のサナギ

オオコノカタは日本最大のチョウ。白地に黒の模様で青い沖繩の空を優雅にゆつたりの飛ぶ姿から「南の島の真鶴人」ども呼ばれる。チョウになる前のサナギは黄金色で神秘的だ。チョウが羽化した後のぬけからからは、金色が消えてしまう。いったいあの金色はどこへいったらうんだらうか？

幼虫は「ホウライイカガミ」という植物しか食べない。



オオコノカタのサナギ



モンシロチョウ

本当たにくさんいる普通のチョウだけど、実はもともと沖縄にいたチョウではない。食草は、キヤベツ、ダイコンなどの野菜類。



カバヤタ

トウワタという毒のある植物を幼虫の時に食べるので天敵である鳥に襲われにくいといわれている。



キチヨウ

一年中、普通に見られるチョウ。食草は、ナンバンサイイカチ、モクセソナなど。



タテハモドキ

一年中見られるチョウ。目玉模様で相手をおどかして、食べられないようにしている。食草は、イワタレソウなど。



ツラベニチョウ

シロチョウ科の仲間では一番大きい。前翅（まえばね）のオレンジ色がきれいな。ギョボクという木が唯一の食草。



アカタテハ

花の蜜や、樹液、熟した木の実、動物のフンにもやってくる。なんでも食べるチョウ。食草はノカラムシ。



ツラクロヒヨウモン

リュウキユウラクソウなどのスミレの仲間を食草とするため、庭や学校、公園などでよく見られる。



キオビエタシヤウ

派手な模様をしてチョウのように見えるけど実はカの仲間。屋間も活動する。イヌアキ（チャ一ギ）が食草で、庭木を丸裸にすることも。

チョウではないけれど...